

令和4年度 崇化館中学校自己評価の分析結果

崇化館中学校の教育活動について、本校の教職員が自己評価を行いました。結果を分析しましたのでお知らせします。

＜よくできていると感じている点＞

○ 特色ある学校づくり

「特色ある学校づくり推進事業を活用し、特色のある教育活動をおこなっている」

☞ 本校は、長年、ボランティア部「麦の会」を核としたボランティア活動を行ってきました。本年度も、コロナ禍で活動が制限される状況にありながら、全校からボランティアを募った「フラワーロード活動」や、竹林整備活動やおちば拾いのイベントなどへの参加など、参加方法や感染症対策に配慮しながら活動してきました。

また、新型コロナウイルス感染症流行前に交流館と連携して実施してきた、挙母祭り翌日の清掃活動について再開の予定を組むことができるなど、総合的な学習の時間の学びとして、ボランティア精神を高めることができました。

今後も、制限がある中でも、地域とともにある崇化館中学校として何ができるかを考えながら、学びと活動の充実を図っていきたいと思います。

○ 教育相談

「子どもとのふれあいを大切にし、教育相談等で生徒理解に努めている」

☞ 生徒が安心して生活できることこそが最も重要という認識のもと、活動の様子や表情、日記（自分ログ）などから、常に小さな変化やサインを見逃さないよう努めています。また、年3回行う「いじめ相談アンケート」、テスト週間に行う「定期教育相談」からも、生徒の心の変容や問題の把握に努めてきました。

気にかかった生徒には即座に声をかけ、話を聞き、保護者と情報を共有し、協力して対応を図るよう努めてきました。また、いじめ対策委員会・不登校対策委員会や学年主任者会、生徒指導部会、子どもを語る会等の中で、職員間で情報と対応を共有しています。さらに、急を要する場合や必要と感じた際は、臨時の会議を開き、早期の組織的な対応を行っています。必要に応じてスクールカウンセラーや心の相談員にも協力を要請し、迅速に問題の解決と心の安定が図れるよう努めています。

今後も、心の問題の早期発見、早期解決を第一優先に、日常の関わりを大切にするとともに、一人の生徒に対して多くの職員が関わり支え、全ての生徒が安心できる学校を作り上げていきます。

○健康教育・安全教育

「子どもが心身ともに健康な生活が送れるよう指導しているか」

「子どもの安全を守る活動を積極的に進めているか」

☞ 本年度の学校保健重点目標を「心身の健康の増進を図り、主体的に健康管理のできる生徒の育成」として教育活動を進めてきました。そして、新型コロナウイルス感染症や熱中症などの危険から身を守るためにセルフチェックや自己管理については、本年度も継続して指導や取組を進めてきました。毎日の検温を含めた体調のチェック、マスクの着用、手洗い、水分補給や帽子の着用、傘さし登下校、行動（運動）の調整等については、どの生徒も自身の力でコントロールできるようになってきています。

本年度は、学校保健委員会で「ストレスの解消法について考えよう～崇中生のストレスを吹き飛ばそう～」をテーマとして、保健委員の代表生徒が、リモートで崇中生の悩みについて等のアンケート結果を発表しました。代表の生徒や教員に実際のストレスの内容や対処法についてのインタビューを行い、答えてもらう場面を設けました。スクールカウンセラーと連携し、ストレスへの対処法について知り、自分に合ったストレス対処法を考えました。

また、ハートフル集会、薬物乱用防止教室、心肺蘇生講習会、防災訓練や学年ごとにテーマや内容を決めて行う防災学習など、自他の心と体を守るための学習にも力を入れて進めてきました。

今後も、保健委員会をはじめとする生徒の主体性や発想を生かしながら、生徒の今と未来にとって価値ある学びや活動を進めています。

＜さらに努力が必要と感じている点＞

○ 学習指導

「一人一人に応じたわかりやすい授業をしているか」

☞ 現職教育（校内教員研修）において、「主体的・対話的で深い学び」に向けて、教員の力量向上のための授業実践や授業研究を進めてきました。しかし、今年度も、本校が大切にしてきたグループ学習による対話的な学びや互いの考えを聞きながら深い学びにつなげていく学習が十分にできない状況でした。また、理科や英語、技能教科、総合的な学習の時間を中心とした体験的な学びについても、制限を余儀なくされている期間が長く、不十分だったことは否めません。少人数学習の大きなメリットである学び合いや教え合いも、実施が難しい状況にありました。

今年度は、学習用タブレットにキュビナ（AI型ドリルソフト）が導入され、自分の学びたい分野に繰り返し取り組んだり、問題を解き終えた後の復習に生かしたりするなどの場面づくりを行いました。まだまだ教師・生徒ともに慣れきってはいませんが「個別最適な学び」

に向けた一步を確実に踏み出しています。来年度、新型コロナウイルス感染症との付き合い方が変わるかもしれない中、「協働的な学び」の充実を目指し、現職教育等で研修を深め、教員の授業力向上を図っていきます。また、授業における生徒自身の振り返りを大切にし、学習の定着を図るとともに、個々の状況把握を生かした授業づくりに努め、授業や個別指導に生かしていきます。

○ 環境教育

「主体的に環境保全に取り組む態度の育成に努めている」

☞ 世界的な共通課題であり、昨今はメディア等でもよく耳にする「SDGs」を、社会科や家庭科、総合的な学習の時間の中で学習するなど、タイムリーで生活に直結したテーマを取り上げて学習を進め、意識の高揚を図り、持続可能な社会の担い手の育成を進めています。今後は、具体的な行動の変容をめざして取組を充実させていきます。

○ 生徒指導

「基本的な生活習慣や規範意識の向上を図るように指導しているか」

☞ 昨年度から、毎日の持ち帰りも含めた、学習用タブレットの活用が始まっています。それに伴い、スマホや SNS の安全かつモラルに配慮した使い方など、情報モラルについて様々な場面や事例を通して指導してきました。また、同時に、不適切な利用方法における健康への影響についても指導してきました。

しかし、実際には、危険を伴うサイトへの軽はずみなアクセスや SNS への不適切な書き込みを行う生徒、深夜まで使用することによって起こる心身の不調や生活リズムが見られる生徒がいることは確かです。さらに、ネットやメディアから発せられる様々な情報や、多様性を認める風潮などから、以前のように一律かつ一方的に社会的ルールやモラルを指導することが難しくなっています。

そのような現状があるからこそ、今後も、道徳教育を基盤にしながら、教育活動全般において豊かな人間性や心を育てる教育を充実させるとともに、一つ一つの事例や出来事を捉えて、生徒に善悪や望ましい行動を考えさせる機会を増やしデジタルシチズンシップ教育を充実させていきます。